

し、韓国気象学会会長であった Moon 氏が亡くなったあと、誰が会長になったのかわからないので、情勢を待つ事にする。

電子情報…2000年12月の気象学会ホームページのアクセス状況 (68,064件)。

用語検討…一般社会向けの用語、やや専門的な用語、かなり専門的な用語、特殊な用語、の4つに分類して用語を選定する作業を開始した。3月末に作業終了を目標とする。担当の委員がパソコンに打ち込むので経費は不要。作業が進んで用語が具体的にあがってくれば、さらに委員で議論する。選択した用語を広く会員に知らせて意見を募る。

その他…2000年度「朝日賞」について当学会から推薦した候補者は選考に漏れた。

- ・韓国気象学会会長だった Moon 氏が1月9日に亡くなったため、日本気象学会から弔電 (Fax) を送った。廣田理事長が副会長の Chung 氏に追悼の意と今後の日韓協力を継続する旨の私信を送った。東アジア気象学会交流について韓国気象学会に送った住理事の提案 (第31期第5回常任理事会議事録参照) にはまだ返事がない。
- ・第31期第4回常任理事会議事録の「教育と普及」の項の最後の部分で、常任理事会として意思決定を行ったかのようにも取れる表現があったことから、会員から問合せがあった。これについては「…という議論があった」という意味であることを了解していただいた。今後、席上で単に議論されただけの事項と決

定された事項が混同されないように、議事録の書き方には十分注意することを確認した。

3. 会員の新規加入などについて

新入会員11名を承認、退会220名。1月15日現在、会員数4,519名、(内、通常会員3,983名)。今月退会が多いのは、会費未納入者を退会にしたため。

4. 日本気象学会細則の一部改訂について

「公益事業を実施するために有している基金」に関する内部規定 (第31期第2回理事会議事録参照) の作成について会計担当理事から提案があったが、本学会においては、基金に関する内部規定は作成しないこととした。この結果、本項関連の日本気象学会細則の一部改訂は行わないこととなった。内部留保に関連して会費の徴収時期、徴収方法については引き続き検討することとした。

5. 2001年度日本気象学会賞・藤原賞について

学会賞、藤原賞、それぞれ2名の候補者を決定した。推薦文を若干修正した後、全理事の投票を行う。

6. 第31期評議員の選定及び議題案について

就任を依頼した候補者10人から内諾を得たので、正式な依頼手続きを行う。

7. 2001年度日本気象学会総会議案について

議題の案が提出された。

8. 日本学術会議関連

木田理事から次のような報告があった：委員長を入倉、幹事を花輪とする地球物理学研究連絡会が1月10日に立ち上がった。木田理事が委員に入っている。旧文部省の科学研究費の細目の分類の大幅な見直し (第31期第5回常任理事会議事録参照) はすぐには行われない見込み。

2001年度春季大会における保育施設斡旋について

2001年度春季大会実行委員会

大会に参加される会員のため、大会実行委員会では、会場近くの保育施設の斡旋 (対象年齢6か月以上：1日4000円未満程度：人数上限有) を行います。利用希望の方は4月13日迄にご連絡下さい。

連絡先：高薮 縁 (東大気候システム研究センター)

Tel : 03-5453-3926, Fax : 03-5453-3964

E-mail : yukari@ccsr.u-tokyo.ac.jp